

338 エイズ患者の肺日和見感染症におけるGa-67 スキャンの有用性

小須田茂, 橋本順, 塩山靖和, 鎌田憲子, 川上亮二, 目崎高志, 秋田佐喜子, 鈴木謙三(都立駒込 放射線科)

AIDS合併カリニ肺炎におけるガリウムスキャンの有用性に関しては米国を中心として知られているが、わが国での報告はない。現在までカリニ肺炎7例, クリプトスポリジウム肺炎1例を経験した。

AIDS合併カリニ肺炎7例のガリウムスキャンの結果はびまん性集積3例, 限局性集積2例, 極めて軽度集積1例, 集積なし1例で, クリプトスポリジウム肺炎の1例は集積なしであった。

AIDS合併カリニ肺炎の特徴的ガリウム所見はびまん性の強度集積とされているが, 治療経過例, 再発例では限局性集積や軽度例があり, 診断上注意が必要であり集積なしは免疫不全末期例であった。

339 強皮症およびMCTD患者の肺ガリウムシンチグラフィ- (SPECTによる半定量的評価)

中村和義, 秦 良行, 大井 牧, 多上智康,
松下智人, 寺田尚弘, 竹田 寛, 中川 毅
(三重大学放射線科)

強皮症およびMCTD患者のガリウム肺集積の程度は軽く、通常のシンチグラフィ-では胸壁の集積の影響が大きく、肺野集積の判定は困難である。本研究ではSPECTにより肺野のカウント値を投与量で除す半定量的評価をおこなった。正常例は 141 ± 8.9 count/mCi、強皮症 193.6 ± 25.5 、MCTD 212.3 ± 23.5 で、それぞれの群間に有意差を認めた。著明な肺集積を示したMCTDの1例では1年の経過観察にて肺高血圧症をきたした。

SPECTによる評価は肺の炎症度および予後の判定に有用と推定された。

340 soft tissue tumor における Ga-67 citrate 腫瘍シンチグラフィの検出能

今枝 孟義, 曾根 康博, 飯沼 元, 兼松 雅之,
土井 偉誉(岐阜大・放) 竹内 章二(同・整外)

整形外科領域, 主に四肢の軟部腫瘍について検討した。対象症例は病理組織学的診断の確定している53例である。軟部腫瘍へのGa集積度を(-), (+), (++)の3段階にわけて評価した。良性腫瘍では(-)が28例, (+)が9例, (++)が2例であり, 陽性率は28%であった。neurinoma, neurofibroma, desmoidでの陽性率が高かった。一方、悪性腫瘍では(-)が2例, (+)が1例, (++)が11例であり, 陽性率は86%であった。集積度, 陽性率ともに悪性腫瘍に高い傾向が認められ, 良, 悪性の鑑別にある程度有用であると思われた。Ga-67 citrate 腫瘍シンチによる全身検索によって初めて再発集を3例で認めた。

341 頭頸部腫瘍のGa-Teサブトラクション・シンチグラフィ

吉田祥二, 西本 均, 吉田大輔, 小川恭弘, 前田知穂(高知医大放射科), 赤木直樹, 久保嘉彦(高知医大放射科)

鼻咽腔、唾液腺への生理的Ga集積により、頭頸部腫瘍の原発巣並びに頸部リンパ節転移のGaシンチグラフィ読影の困難性が時にみられる。この解決法としてGa-Teサブトラクションシンチグラフィ-の有用性を検討した。

対象症例はControl 5例、頭頸部腫瘍 15例で方法はGa-67-citrate 111MBq静注48時間後の頭頸部正面像を撮像し、続いて同体位でNa-Te-99m-0, 111MBq 静注15分後の正面像を撮像する。鼻咽腔のカウント数又は唾液腺のカウント数を同等としてGa-Te サブトラクションシンチグラフィ-を作成し、その診断的意義を検討した。本法を用いることにより、鼻咽腔或いは唾液腺近傍の原発巣或いは頸部リンパ節転移の描出がより明瞭となった。

342 ⁶⁷Gaの肺がんへの集積

安東 群, 安東逸子, 平木辰之助(金沢大学 医短大部)
山田典央, 久田欣一(金沢大学 核医学科)

クエン酸-⁶⁷Gaの肺がんへの集積について検討した。クエン酸-⁶⁷Gaをルイス肺がんを皮下移植したマウスに注射し、がん及び臓器組織への⁶⁷Gaの集積性を調べた。つぎに摘出したがん組織のマクロオートラジオグラムから⁶⁷Gaのがん組織内分布を観察した。がん組織での⁶⁷Gaの結合物質も調べた。

がん/臓器集積-比では注射24時間後に、がん/筋肉-比が8.4、がん/血液-比が0.53であり、48時間後には、同様に9.9、1.5であった。組織内分布では、がん組織の周囲の炎症部に⁶⁷Gaは高濃度に集積していた。⁶⁷Gaの結合物質は他のがんで報告していると同様に分子量約1万の酸性ムコ多糖であった。人の肺がんについても実験したので併せて報告する。

343 肺癌放射線治療後の⁶⁷Gaシンチグラフィにおける肺野集積の検討

平田みどり, 松井律夫, 北垣 一, 田中豊, 山崎克人,
井上善夫, 河野通雄(神戸大学放射線科) 金川公夫(県立こども病院放射線科)

肺癌の放射線治療後に⁶⁷Gaシンチグラフィ-を施行した50例を対象に、腫瘍部以外の肺野の集積について検討した。13例において、肺野に異常集積が認められた。

集積は、照射野を含む全肺野の軽度のびまん性集積、照射野以外の肺野(特に下肺野に多い)に認められる肝臓と同程度の集積と、肺野の限局性集積の3タイプに分類された。限局性の集積は胸部写真上の間質性肺炎に一致していた。びまん性の集積は、胸部写真では明らかな変化を認めないことが多く、ごく軽度の間質性変化の可能性が考えられたが、強い集積は予後不良の症例に見られることが多く、注意が必要であると思われた。